

## 輸入粗飼料の情勢

全 酪 連  
購買生産指導部  
購買推進課

### 北米コンテナ船情勢

米国西海岸における北米西岸港湾労組（ILWU）と雇用主団体（PMA）の労使交渉は現地6月14日に暫定合意に至っておりますが、正式合意については秋頃と見込まれています。

カナダ西海岸ではカナダ西岸港湾労組（ILWU CANADA）と雇用主団体（BCMEA）の労使交渉が行われていましたが7月1日よりストライキに発展し、一時的にバンクーバー港で貨物の滞留や荷役遅延が発生しました。7月13日に一度、暫定合意となりましたが、カナダ西岸港湾労組が政府からの和解案を否決したことから再びストライキとなりました。その後、再度交渉が行われ7月30日に暫定合意となりました。

現在は正常稼働となっておりますが抗議活動の影響で港湾が混雑しスケジュールの遅延も発生しており早期の解消が望まれています。

### ビートパルプ

【米国】

23-24年産の播種は終了しています。春先の冷涼な気候により播種作業が遅れましたが、気温の上昇とともに生育は順調に進んでいます。7月前半は乾燥した気候となりましたが後半は適度な降雨もあり、今後天候が安定すればスケジュールの早い地域で8月中下旬頃から23年産の収穫作業が開始される見込みです。

市場については輸出向け、米国向けの需要も少ないため供給に必要な分のみを短期的に買付しており、依然として産地相場を慎重に見極める状況が続いています。

### アルファルファ

ワシントン州

主産地であるコロンビアベースンでは天候に恵まれたこともあり、例年より早く2番刈の収穫が終盤を迎え、早い圃場では3番刈の収穫が行われています。収穫された2番刈の品質は色目が良く上級品が多く発生しています。

新穀の取引については22年産の歴史的な高値を受け慎重に買付を進めている輸出

業者に対し、生産農家は少しでも高値で販売したいと考えているため依然として買付進捗も低調のままで産地相場を見極める動きが続いています。



コロンビアベースン2番刈りアルファルファの圃場写真（7月下旬撮影）

## ユタ州

ユタ州では1番刈の収穫が終了し、現在2番刈の収穫作業が終盤を迎えています。1番刈は多くの圃場で降雨被害があり上級品の発生は限定的となっています。中国や韓国といった輸出向け需要も低調に推移しているため産地相場は軟化しています。

## オレゴン州

主産地であるオレゴン州クラマスフォールズでは1番刈の収穫作業が終了し、7月下旬から2番刈の収穫作業が開始されています。23年産の1番刈は例年よりも1週間遅い6月中旬から開始されました。作況については天候の回復を待って収穫した影響で、刈取り適期を逃し生育が進んだ圃場もあり、成分値の低下が懸念されましたが、例年同様、上級品が生産されています。

同州クリスマスバレーにおいても1番刈の収穫が終了しています。6月中旬より収穫作業を開始しましたが、収穫作業中に降雨被害があり6～7割程度が雨あたり品となり良品の発生は限定的です。

産地相場は米国内乳価の軟化、米国内酪農家の購買力が低下していることもあり、引き合いは弱く、需要は低調に推移しています。輸出向けでは中東向けで高成分のアルファルファを買付している輸出業者もいますが、買付進捗は低調となっています。上級品不足の影響で近隣州から買付に入る動きもあるため、今後の動きには注意が必要です。



(23年産オレゴン産1番刈アルファルファ 7月下旬撮影)

### カリフォルニア州

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは現在5番刈が収穫中です。産地では連日40℃を超える気温が続いており、過乾燥気味なサマーハイ中心の発生となっています。23年産は1番刈から3番刈は高成分の上級品が多く中東向けで買付が進みましたが、4番刈以降成分値が低下していることもあり需要は低調に推移しています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点でのアルファルファの作付面積は145,769エーカー（前年同期は130,758エーカー）と前年同期比111%と増加しています。

同州北部のディクソン地区では現在3番刈の収穫作業が終盤に差し掛かっています。産地は酪農地帯から地理的に近いこともあり、1番刈は旺盛に売買されていましたが、2番刈以降米国内需要が落ち着いてきたことから相場は軟化しています。

### 米国産チモシー

主産地であるワシントン州コロンビアベースン及びエレンズバーグでは1番刈の収穫作業が終了しています。コロンビアベースン南部での早い圃場では7月下旬より2番刈の収穫作業が開始されています。23年産は春先の冷涼な気候で推移していたものの5月下旬の急激な気温の上昇や、収穫期の不安定な天気の影響で上級品の発生は限定的となり、中級品～低級品の発生が大半となっています。1番刈の生産量についても昨年と比較すると20～25%減少しています。

23年産も前年と同様に豆類やとうもろこしといった換金性の優れる作物に転作している圃場も多く、2番刈の生産量は減少すると見込まれています。



(23年産ワシントン産1番刈チモシー 7月下旬撮影)

## スーダングラス

カリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、1番刈の収穫が終盤を迎えており、圃場によっては2番刈の収穫が開始されています。これまでに収穫されたスーダングラスは上級品及び中級品の発生が中心となりましたが、色抜け品の発生は生育期の湿度が低かったこともあり発生は少なくなっています。産地の多くの輸出業者は22年産の旧穀在庫を抱えており、例年よりも遅い買付進捗となっています。また、需要減退や産地価格も軟化していることから2番刈を行わない生産農家も多くなると予想されています。

灌漑局の発表によると、7月1日時点での作付面積は22,456エーカー（前年同期は46,888エーカー）、前年同時期比48%となっています。

作付面積は先月に引き続き減少していますが、日本向けの需要に対しては輸出業者も旧穀在庫を抱えているため供給力に懸念はなく、今後の産地相場上昇も考えにくい状況です。



(23年産スーダングラス 7月中旬撮影)

## クレイングラス（クレインは全酪連の登録商標です）

主産地であるカリフォルニア州南部インペリアルバレーでは、2番刈の収穫が終了し、圃場によっては3番刈の収穫が開始されています。産地では連日40℃を超える高温が続き、高湿度の予報も出ていることから3番刈は茶葉の混入や茎質が固く、不安定な品質になることが懸念されています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点でのクレイングラスの作付面積は22,179エーカー（前年同期19,262エーカー）となっており、前年同時期比115%と増加しています。

## バミューダ

主産地であるカリフォルニア州インペリアルバレーでは現在バミューダヘイは3番刈の収穫が開始されています。1番刈と2番刈の品質は上級品の発生が中心となりましたが、3番刈の品質は直近の気温上昇が影響し中級品の発生が中心となっています。

産地相場については米国内農家からの需要も減退しているため軟調に推移しています。

インペリアルバレー灌漑局の発表によると、7月15日時点の作付面積は65,080エーカー（前年同期62,740エーカー）と前年同期比104%の作付面積となっています。

## ストロー類（フェスキュー・ライグラス）

主産地であるオレゴン州ウィラメットバレーでは、7月上旬よりペレニアルライグラスストローの収穫が開始されました。例年と比べ降雨が少なかったため、土壌中の水分が不足し生育が進まず生産量は減少すると予想されています。

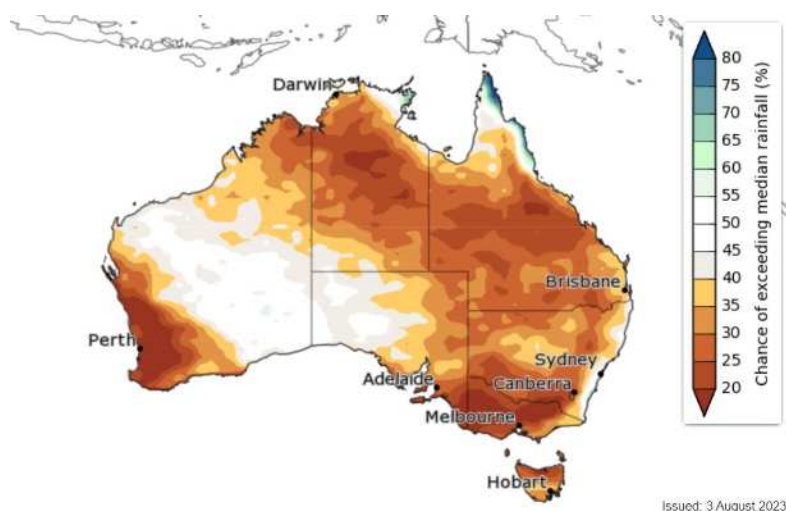
## カナダ産チモシー

主産地であるアルバータ州中部クレモナ地区では乾燥した状況が続いたため、例年より遅い収穫進捗となっていました。7月下旬より収穫が開始されました。生育期に山火事の煙による日照不足の影響で23年産の収穫量は大幅に減少することが予想されています。

同州南部レスブリッジ地区では1番刈の収穫作業は終了しています。収穫期の降雨も少なく天候に恵まれたことから上級品から中級品中心の発生となっています。市場については、産地相場を慎重に見極めているため輸出向けの動きは少ないものの、干ばつの影響や収穫量の減少でカナダ内酪農家からの需要も多く好条件で取引されており、今後の産地相場には注視が必要です。

## 豪州産オーツハイ

23年産の作付けは終了し生育期中盤に差し掛かっています。全豪的に平年を下回る降雨量となっており、特に西豪州では平年の30%~50%の降雨量と乾燥した気候が続いています。下図は豪州の気象庁による8月から10月の降水量予測ですが、平年以上を下回る降水量になることが予想されており生産量の減少が懸念されます。



出典：The Australian Bureau of Meteorology より

## 豪州コンテナ船情勢

コンテナ船の情勢については上級品の出荷が中心の西豪州で、出荷量に対し空コンテナが不足しているためフリーマントル港では混雑が続き遅延が発生しています。アジア地域の積替港の混雑は緩和されていますが、現状もスケジュールは不安定な状況が続いており、日本への入船が予定よりも遅れるケースも散見されます。

以上